

-- 幼稚園における ICT 利用 --

-- Research --

16.01.31-

文責：佐藤朝美



From IT to Tablet: Current Use and Future Needs in Kindergartens

https://www.idunn.no/dk/2012/03/from_it_to_tablet_current_use_and_future_needs_in_kinderga

<要旨>

本稿は、1990年代半ばから今日まで年代順に教育プログラムにおける幼稚園のICTの実践とICTの主な流れを描写。テクノロジーの役割に対する認識における権威者の関心不足と、幼稚園と就学前の教員教育におけるデジタルリテラシー促進の必要性について議論。

<Introduction>

1980年代後半のテクノロジーと今日のタッチデバイステクノロジーでは大きな差がある。今日のタブレットはいつでもどこでもしやすく、シンプルなプラグイン&ケーブルで充電でき、便利である。昨年多くの幼稚園でタブレットが使用されているとの報告があった。今日のICTは、広範囲のデジタル機器を含む。子供はWebを見たりゲームをしたり、ビデオを見たり、親戚とスカイプしながら多くの情報を得られる。幼稚園児のブログさえある。0-6歳の子供の育ちにとって、デジタル絵本やメディアは日常生活の一部で、子どもは当然のこととしてテクノロジーを使用する。しかし、幼稚園や保育園の教員が今日の子どもたちの教育にとってテクノロジーが重要な役割を果たすという認識をもつ以前に、多くのなすべき作業が残されている。

<The first tracks 1989-2004>

Everyday technology

本稿は、1990年代半ばから現代までの教育プログラムにおけるICTの立ち位置と幼稚園のICT実践の流れを記述。テクノロジーの役割に対する認識における権威者の関心不足と、幼稚園と就学前の教員教育におけるデジタルリテラシー促進の必要性について議論。ICTの統合はまだ未だな状態。この領域における教育政策のモデルを作る戦略を議論すべきで、生涯学習の最初の時点である幼児期を考えるべき。記事は、幼稚園におけるアカデミックな状況でのICTとデジタルリテラシーについての議論を調査する。

How to understand children and ICT

1990年代半ばには、障害をもつ子ども達は、幼稚園がノルウェーの労働党とウェルフェア政府から借りることができたコンピュータを使用した。コンピュータはこれらの子ども達に役立つ道具とみなされたが、健常児に適切とされなかった。使用が許可されなかった。コンピュータにおける活動は座りっきりで受動的であるように見られた。この信念は正確ではないが、通常、コンピュータが幼稚園に導入されなかった。仲介することは重要な概念。幼児期の活動や能力は、人工物を通して社会的文化的活動になる(Vygotsky, 1978)。スタッフがどのように子ども達と交流するかという詳細な観察が、子ども達とコミュニケーションしながらICTを理解することを道付ける方法を明らかにする。ICTの遅い実践を理解するために、短期間で子どもたちの理解がどのようにICTの見方に影響するのか見ることが有用であった。この時期からの若干の研究プロジェクトは、幼稚園におけるICTに大人の態度と視点にフォーカスした(Lundkvist, 2002; Ljung - Djärf, 2004; Siraj - Blatchford & Siraj - Blatchford, 2004)。

考えというのは、経験したことや他者との対話や関係で築かれる。対話や価値、文化や関係性は、全体におけるパーツである(ダールバークほか, 2002)。子どもがピュアで弱いものとみなす子どもを対象にする実践家、あるいはICTを子どもから守るべきものとみなす人は、新たなテクノロジーはチャレンジになるだろう。テクノロジーは不自然で危険であるから子どもから遠ざけるべきであり、大人自身も制御しないだろう。デジタルリテラシーが低いあるいは欠如してい

るなら、子どものコンピュータゲームの使用を禁止するだろう。しかし、子どもが思考やカンジョをもつ個人で、意味を作り出すものとみなすなら、教育実習にデジタル活動を含むようにすべきである。1990年代半ばには、対話は平行されてた。幼稚園における通常の対話は、実践家がICTをどのように表現し関係性を持つか、子どもとのデジタル実践をどのように行うか、に影響する。

Framework plan

幼稚園のフレームワーク計画は、テクノロジーやメディアについて、子どもの遊び世界を動かしていると言及した。幼稚園は、子どもの経験における文脈を作り出し反映させ、子どもが家庭から持ってきたテクノロジー経験を補強することができる。女の子がコンピュータを使用することを奨励することは特に重要であった。テクノロジーは、自然や環境、技術の分野で特等的である。コンピュータは他の技術と同様、教育的文脈の中で多くの機会を提供すると時間がかかったが認められた。

Nordic conference

ノルウェーの大臣は、1998年にITカンファレンスを開催し、プレスクールの教師教育や北欧の5つの国から幼稚園から参加者を集めた。カンファレンスでは、2つの領域でのICTの実装のターニングポイントについて述べられた。カンファレンスではプレスクールの教師教育や幼稚園プログラムに、ICTを導入するために必要な第一歩を描く小おに終わった。

これらおステップは、政策やアカデミックなサポートを実行し始めるのに用いられた。最初に、プレスクールの教師教育におけるICTの欠如を指し示した国家状況のレポートを成し遂げた。2つ目に、プレスクールの教師教育に、ICTを用いた新たなフレームワークを適用した。ICTは、就学前の教師教育の必修科目になるべきである。3つめに、プレスクールの教師にICT教育は計画され、後に、Nordplusプロジェクトの一部として実行された。最後に、ICT Web サイトがICT関連ニュースや情報と関連するチャンネルとして作られた。

Local project

2000-2001の間、KleppとKarmoyのコミュニティにおいて、4つの幼稚園がプロジェクトを遂行した。プロジェクトの目的は、遊びを通じた学びと結びつけるフレームワーク計画のゴールを達成するための道具としてICTを用いる経験を得ることであった。これは先駆的な実践で、プロジェクトグループは、子どもや家族に関わる国の機関のファンドが適用された。

A European project

“MediaGuide”は、子どもたちが創造的な活動でICTを用いることを狙ったEUファンドのプロジェクトであった。2001-2002にかけて、デンマーク、オランダ、スペイン、ノルウェーで同時に行われたプロジェクトであった。ノルウェーでは、デジタル機器の設備不足が深刻であった。しかし、プロジェクトは、テクノロジーを用いて何を達成できるのかという事例を示す事ができた。他の国も同様であった。お金はデジタルツールやソフトのために必要であるし、トレーニングも必要であった。成果は地元での教務関心を産み、それに伴いサポートも得られた。

KidSmart-programme

2002年から、IBMのKitdsSmartプログラムがノルウェーの幼稚園にも導入された。プロジェクトでは初年度に多くの寄付が行われ、ICTを用いた教育的テーマに多く出会うことになった。プロジェクトは大人の好奇心を刺激し、子どもと同様に創造的な活動を行った。プロジェクトに参加しない幼稚園では、コンピュータは主にゲームしか使われてないことが良くあった。新たなテクノロジーの教育の可能性を引き出し、成功させるためには、専門的に開発されたトレーニングとその継続が必要だということが国際的なレポートにより明らかになった。

LærerIKT and kindergarten

資金調達失敗の話

—
Summary 1989–2004

—
実践家は資源や資金が限られても新たなテクノロジーを用いた革新的な使用を生み出していたが、特に成功したケースは、実践家がデジタルに熟達していた場合である。スタッフに関心がない場合は成功しなかった。